

2026年
新年のご挨拶神田 直孝
看護部長院長
長谷川 正治

新年明けましておめでとうございます。

地域の皆さまには、日頃より当院の医療・看護活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。当院看護部は、「地域に寄り添う看護」を大切に、患者さん一人ひとりの思いや生活背景に目を向けた、安心と信頼の看護を提供できるよう努めて参りました。

超高齢社会が進む中、医療に求められる役割も大きく変化していますが、地域の医療機関や福祉施設との連携をさらに深め、切れ目のない支援を実現していきたいと考えております。その一環として、2026年10月に当院は新築移転いたします。現在の医療体制をさらに拡充し、地域の皆様により一層の安心を提供できる体制へとグレードアップしてまいります。

そして本年も看護職員一同、専門性と人間性を磨きながら、皆さまの健康と笑顔を支える存在であり続けられるよう尽力してまいります。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

2026年は干支「丙午」の年。丙は陽の火、午は陽の動物を意味し、情熱と行動力を象徴する年とされています。この力強い干支にあやかり、当院も新たな挑戦の年として歩みを進めてまいります。

本年10月、121床を増床し、309床の中規模ケアミックス病院として新たなスタートを切ります。これに伴い、「新越谷病院」から「イムス埼玉越谷病院」へと名称を変更いたします。新施設のもと、救急医療から回復期リハビリ、慢性期医療、在宅支援までを一貫して担う多機能型医療拠点として、より質の高い医療サービスの提供を目指し、職員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。

今後も地域医療ネットワークの一翼を担う存在として、患者様・ご家族様により一層信頼され、選ばれる病院を目指して精進してまいります。本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



住み慣れた自宅でやりたいをサポート

訪問リハビリ

新越谷病院の訪問リハビリは、自宅で療養中の方に対して専門のリハビリスタッフがご自宅に訪問し、身体機能の回復や日常生活動作（ADL）の向上をサポートするサービスです。病院を退院した後ももう少しリハビリをしたい。元の生活が送れるか不安。そういった患者様やご家族の思いに寄り添い精一杯お手伝いをさせていただきます。

訪問リハビリの特徴

自宅でのリハビリ

通院が難しい方でも、自宅でリハビリが受けられるため、移動の負担がありません。普段の生活に近い環境でリハビリすることができます。

専門スタッフによる個別サポート

理学療法士・言語聴覚士の専門スタッフが個々の状態に合わせたリハビリを提供します。

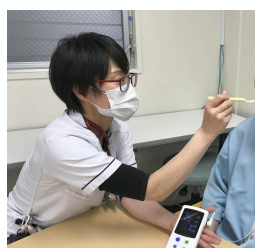
本人の希望にあわせた
リハビリ目標を

足腰の痛みと体力低下により、外出に不安があったAさん。
「孫の結婚式に出席したい」という希望があり、訪問リハビリを開始しました。ご自宅での歩行練習や動作指導を続け、当日は無事に式に参加。
「一生の思い出になりました」と笑顔で話してくださいました。

こんなお悩み
ご相談ください今の生活を
維持したい

筋力を維持するための運動や関節が硬くなるのを防ぎます

転倒を予防したい



言語聴覚士が在籍 専門スタッフが嚙下訓練や介助指導を行います

食も
べら
れ度
なり
よう
に
たい

公共交通機関などの練習も可能です

外出の練習
がしたい

ご利用までの流れ

当院では受診が難しくても、医師が
ご自宅に訪問することが可能です！

STEP 1

担当の
ケアマネに
相談する

STEP 2

新越谷病院
を受診する

STEP 3

契約

STEP 4

訪問開始

ご利用対象者

- 要支援（１・２）・要介護（１～５）の認定されている方
- 主治医から「訪問リハビリテーションが必要」と認められた方

お問い合わせ：訪問リハビリテーション
（担当）070-5561-1171

移転情報

2026年10月新築移転予定！

▶ 新しい病室

新しい病院では、病室もより過ごしやすい空間になる予定です。落ち着いた雰囲気の中でゆっくりとお休みいただけるよう、空間づくりにも工夫を重ねています。設備も使いやすさに配慮し、より快適に入院生活を送っていただけるよう整備を進めています。患者様が安心して治療に向き合える病室を目指してまいります。

▶ 建物ができあがってきました

11月21日に上棟式を終え、外観も徐々に形が見えてきました。完成に向け、引き続き工事が進んでいます。

新越谷病院は新築移転し生まれ変わります！



イムス埼玉越谷病院

今後も随時情報をお届けしていきます。引き続きご注目ください！

→新しい
ホームペー
ジは
こちらから退院後も
新越谷病院と
つなが
しんこし

人生の最期、あなたはこう過ごしたい？

人生会議・ACP ってご存じですか？

～もしものときのために、大切な人と話し合いを～

将来、病気や事故で自分の気持ちを伝えられなくなったときに備えて、自分の望む医療やケアについて前もって考え、ご家族や医療ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。
日本では分かりやすく「人生会議」と呼ばれています。これは、最期を迎えるそのときまで、自分らしく過ごせるように準備しておく大切なステップでもあります。日々、病院や地域でこの取り組みの大切さを伝え、広める活動を行っている訪問看護ステーション大田所長にお話を伺いました。

Q: ACPとは？

Advance Planning
アドバンス プランニング
【事前に】 【計画する】
ケア are
【希望する医療・ケア】 **= 人生会議**

命の危機が迫った時
70%の方が自分の気持ちや望みを
人に伝えることができなくなると言われています

約70%



Q: なんで必要なの？

人生の最終段階では、治療の選択や生活の質について大切な決断が求められます。
しかし実際には、本人の気持ちを家族や医療者が知らず、
「本当はどうしてほしかったか」が分からないまま医療が進んでしまうことがあります。

思いを話すことで
安心できる

いざという時、
家族が迷わない

自分の望む
ケアや医療が受けやすい

人生会議を行うメリット

「人生会議」を行うことで、自分の希望が伝わり、家族や医療チームも納得した決断ができるようになります。
後悔なく安心して最期を迎えるために、今から少しずつ話し合うことが大切です。

最期まで自然に過ごしたい

急に言われてもわからない…

病院でなく家で過ごしたい

本人はどうしたいんだろう？



Q: いつ始めればいいのか？

人生会議をはじめるおすすめタイミング

- ✓ 健康診断の結果を見たとき
- ✓ 家族の病気や介護を経験したとき
- ✓ 病状が変化したとき
- ✓ 入院した時や退院した時
- ✓ 記念日、誕生日



「ACP＝重い病気になったとき」ではありません。元気なときから何度でも見直すことが大切です。

Q: どんなことを話し合うの？

将来どこで過ごしたいか

自宅・病院・施設など
病気が進んだ時、どの場所で過ごしたいかを考えます



苦痛の緩和をどこまで希望するか

痛みや苦しみをどの程度まで和らげたいかを考え、自分に合ったケアの希望を伝えます



大切にしたい生活・価値観

家族と過ごす時間、好きな趣味を続けたいなど「自分らしさ」を保つために大切にしたいことを整理します



代理で意思を伝えてほしい人

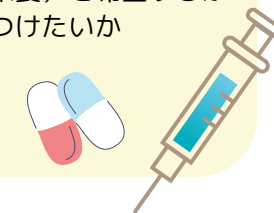
判断が難しくなったときに、自分の想いを代わりに伝えてくれる人を決めます



文章にまとめることが理想ですが、まずは「話し始める」だけでも立派な一歩です。

望む治療/望まない医療

食べられなくなったら胃ろう（経管栄養）を希望するか
呼吸が困難になったら人工呼吸器をつけたいか
延命措置、人工呼吸器、点滴、
痛みのケア など



埼玉県医師会が作成した、人生会議のための『私の意思表示ノート』ホームページからダウンロードできますので、ぜひ一度ご覧ください

Point!! 人生会議・ACPの大切なポイント

▶自分の思いは伝えるようにしましょう

あなたが「当たり前」と思っていることも、伝えないと家族や医療者・介護者にはわかりません。自分の気持ちは変わっても大丈夫。「今の思い」を少しずつ伝えていくことが大切です。伝えることは、家族の悩みや負担を軽くし、みんなの安心につながります。

▶自分の思いは書き留めるようにしましょう

頭で考えているだけでは伝わりません。ノートでもメモでもスマホでも構いません。書いておくと、家族や医療者・介護者と共有しやすくなります。

▶思いは変わるものです。繰り返し何度も話し合いましょう

年齢、体調、家族の状況で、価値観は自然に変わります。そして、簡単には決められない大事なことです。その時々「今の自分の気持ち」で大丈夫。家族等、医療者・介護者と必要な時に何度でも話し合いましょう。話すたびに、お互いの理解が深まり、安心につながります。

人生会議・ACPは、“最期を決める”のではなく、“自分らしさを守る準備”です。小さな一歩でも構いません。大切な人とあなたの思いを分かちあう時間を、ぜひつくってみてください。



越谷ロイヤル訪問看護ステーション
所長 大田 真紀子

